

目標

従業員の環境保全活動への理解を深め、環境意識の向上を図ります。

施策

新入社員から管理職まで、全社員が参加できる環境教育や、リサイクルフェアなどの環境教育プログラムを実施し、環境意識を高めます。

実績

環境月間

1999年6月の環境月間には社内報(1021号)に環境特集を組み、4ページにわたっていすゞの環境への取り組みをいすゞグループ内外に報じたほか、1023号からはディーゼルエンジンの環境取り組みへの理解を促進するため、「ディーゼルゼミナール」を連載しています。



社内報

従業員への環境教育

いすゞでは新入社員から幹部まで一人ひとりが環境保全意識を高め、積極的に取り組めるよう従業員教育を実施しています。また、生産部門では環境マネジメントシステムに関する教育をすべての関係者に実施しました。

教育区分	対象	主な内容	開催頻度
基礎教育	新入社員	いすゞの環境保全への考え方と対応	年1回
	一般社員、管理職	外部講師を招いて、環境問題の概要および対応の必要性を教育	随時
専門教育 (ISO14001)	一般社員、管理職	環境マネジメントシステムの一般教育	
	監査人	環境マネジメントシステムの詳細 内部監査の仕組みと手順	
	重要設備従業者	設備概要、運転と点検 保全、異常/緊急時の処置	年1回

リサイクルフェア

いすゞのリサイクル活動のあらましを従業員に紹介するとともに、環境問題をより身近にとらえるために、「いすゞリサイクルフェア」を開催しました(本社:3月、川崎工場:5月、藤沢工場:5月)。総入場者数は約800名にのびりました。



リサイクルフェア

1998年度環境目標と実績

いすゞは1993年に、『いすゞ地球環境憲章』を企業活動として推進していくために、具体的な取組内容を盛り込んだ『いすゞの地球環境取組計画』をまとめ、公表しました。3年後の1996年4月には、その間の実績を踏まえて見直しを行い、ISO14001環境マネジメントシステムの導入など新たな項目も追加して推進してきました。

今回、新たに「いすゞ環境報告書」を作成するにあたり、今までの目標と実績をまとめました。

環境目標	1998年度実績
ISO14001環境マネジメントシステムの導入 ・国内全4工場認証取得 / 1999年度	・1工場認証取得
燃費の向上 ・使用段階の車両燃費を改善し、CO ₂ 排出量の削減に寄与する	・「ビッグホーン」は2005年新燃費基準値を達成(ディーゼル車) ・ユーザーの燃費向上に寄与するため毎年「省燃費・安全運転講習会」を実施
排出ガスのクリーン化 ・ディーゼルエンジンの長期排出ガス規制、次期新短期排出ガス規制に対応し、クリーン化に努める	・長期規制へ対応し、高圧燃料噴射など新技術を開発 ・低公害車指定制度に積極的に対応 ・路線バスにアイドリング・ストップ&スタートシステム車を開発し普及 ・DPF*を開発し、1998年4月からバスに装着、販売
クリーンエネルギー車の開発 ・クリーンエネルギー車の開発を積極的に推進	・CNG**小型トラック「エルフ」を専用の量産ラインで生産開始 ・中型トラックおよび路線バスでCNG車を販売
リサイクル性の向上 ・新車リサイクル可能率を90%以上 / 2002年(自主目標)	・リサイクル可能なポリオレフィン系樹脂材料への転換、樹脂部品の材料識別表示、人工木材の研究などリサイクル性向上の技術開発を推進
鉛の使用量削減 ・1996年度の1/2以下 / 2000年 ・1996年度の1/3以下 / 2005年	・1999年モデル新車型より半減(小型トラック「エルフ」を除く) ・一部車型で1999年モデルより1/3以下を達成
カーエアコン冷媒使用量の削減 ・省冷媒型エアコンの採用拡大	・従来エアコン比平均20%削減
工場の省エネルギー ・エネルギー使用効率向上 原単位平均1% / 年 ・CO ₂ 排出量の安定化 1990年レベルで安定 / 2000年	・1990年比17%向上 ・1990年比34%削減
工場の廃棄物の削減 ・最終処分量の削減 1990年比70%削減 / 2000年	・1990年比79%削減
物流の合理化 ・梱包材等の木材使用削減 リターナブル化およびスチール化 65% / 2002年	・リターナブル化およびスチール化 53%達成

*DPF: ディーゼル・パーティキュレート・フィルター

**CNG: 圧縮天然ガス